

1 平成29年7月九州北部豪雨

(1) 被害の特徴

○ 福岡県の朝倉市、東峰村を中心としたエリアにおいて、**わずか9時間で774mmという、短時間に記録的豪雨を観測**

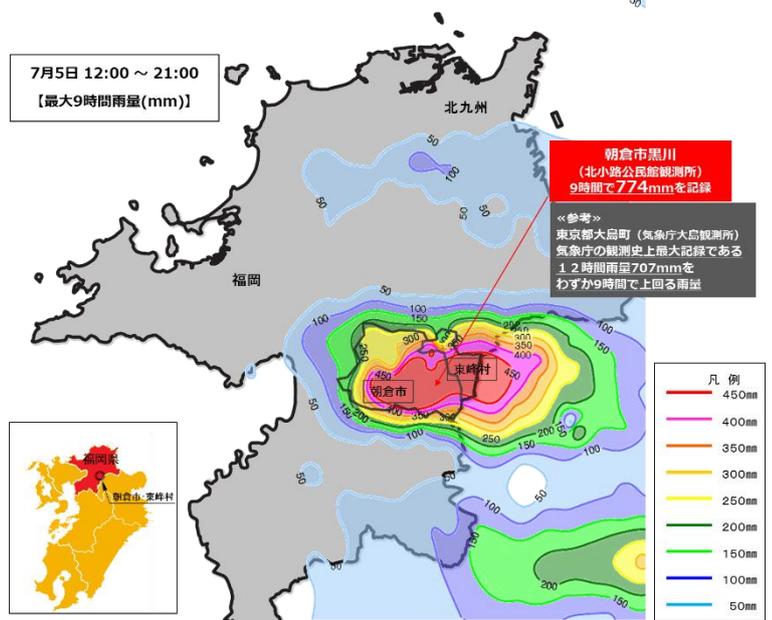
＜福岡県観測：朝倉市黒川(北小路公民館観測所)7月5日12時から21時＞

⇒ **観測史上最大の記録である12時間雨量707mmを上回る雨量**＜気象庁観測：東京都(大島観測所)平成25年10月16日＞

⇒ **朝倉市の7月平均月間雨量の2倍を超える雨量**

平成29年7月5日、昼頃から局地的に非常に激しい雨が降り、特に福岡県筑後北部から大分県西部にかけて、「線状降水帯^{*1}」が形成されて猛烈な雨が降り続き、九州で初めてとなる「大雨特別警報」が気象庁から発表されました。

気象庁における日本の観測史上最大の記録である12時間雨量707mmをわずか9時間で超える774mmという記録的豪雨により、朝倉市、東峰村及び添田町を中心とした山間部で多数の山腹崩壊が発生し、河川の氾濫に加えて、大量の土砂・流木が広範囲に流出するなど、これまでに例のない甚大な被害が発生しました。



○ 記録的豪雨(9時間で774mm)により、山間部で多数の山腹崩壊が発生

○ 河川の氾濫に加えて、大量の土砂・流木が広範囲に流出するなど、これまでに例のない甚大な被害が発生



※1 線状降水帯

次々と発生した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる強い降水を伴う雨域。

上記電子データはこちら HP からご覧いただけます→
(ページ番号をクリックしてください)

